



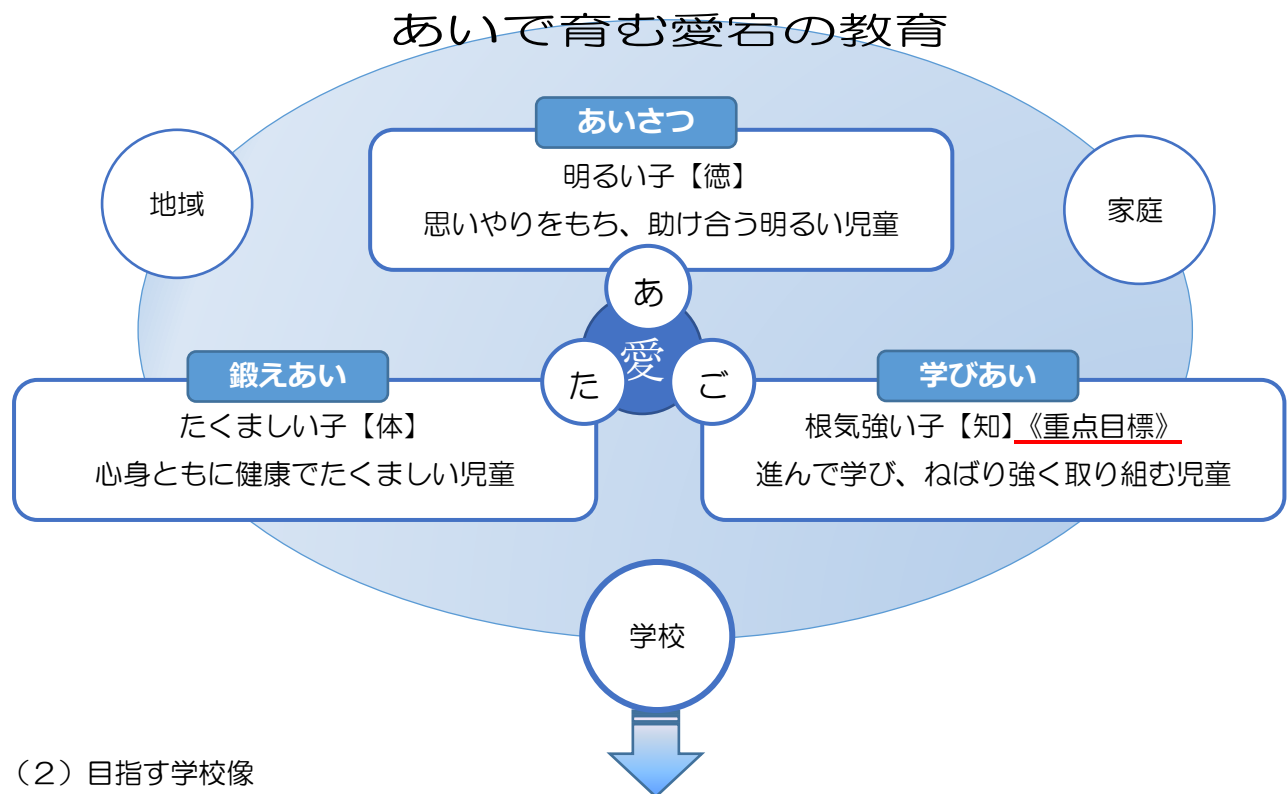
昨年度、本校の教育目標の中で「根気強い子【知】」に重点を転換し、教育活動に取り組んできました。今年度も引き続き授業の質の一層の向上を図り、健全育成面では「自己有用感の育成」、学力面では「主体的に学習に取り組む態度を土台とした基礎・基本の確実な習得」を重点目標とします。学校生活の大半を占める授業を、児童が互いに学び合う「協働的な学び」を通して充実したものにしていくことは、学力向上に資するのみでなく、より良い人間関係が構築され、いじめや不登校の未然防止にも大きく寄与します。分からない子は聴いたことで分かるようになり、教えた子は教えたことでより定着が進み、自己有用感も高まります。健全育成策と学力向上策は表裏一体です。さらに、「協働的な学び」と「個別最適な学び」を一体的に充実した「令和の日本型学校教育」の構築を目指し、学習指導要領の内容を着実に実施します。

また、教育の質の向上のための働き方改革を引き続き推進することにより、授業力向上のための研鑽と休養の、めりはりのある働き方ができるようにしていきます。

1 目指す学校

(1) 教育目標

人権尊重の精神を基調とした知・徳・体の調和のとれた人間形成により、国家及び国際社会の一員としての資質をもった、心豊かに、たくましく生きる児童を育成します。



(2) 目指す学校像

学校・家庭・地域が一体となって「あたごの子」を育み、児童本位の教育活動を基盤として、児童にとって、学習権が保障され、授業が楽しく、居心地が良い「安心して学べる学校」
保護者にとって、学校の教育活動がよく分かり、信頼できる「安心して預けられる学校」
教職員にとって、同僚性・協働性を高め、組織力を発揮する「安心して勤務できる学校」

2 中期的な目標と方策（○） および 今年度の具体的方策（◎）

（１）豊かな心の育成【徳】

- 生命尊重、人権尊重の精神の育成
 - ◎いじめ対策委員会を中心とした組織的な未然防止・早期対応
 - ◎校内委員会を中心とした不登校への組織的対応
 - ◎セーフティ教室、メディアリテラシー教育等の「生命（いのち）の安全教育」による安全・安心な学校生活
- 全教育活動を通した心を育てる教育の推進
 - ◎『年間生活目標 進んであいさつをしよう』の共通実践 による「心」と「形」の育成
 - ◎授業や特別活動を要とした自己有用感の育成とキャリア教育の充実（キャリアパスポートの活用）
 - ◎「考え、議論する道德」の充実
- 特別支援教育の充実
 - ◎校内委員会を核とした配慮を要する児童の指導方針の共有、専門機関、特別支援教室との連携
 - ◎特別支援学級の児童の自立と社会参加を見据えた通常学級との交流及び共同学習の充実
 - ◎学校生活支援シート及び連携型個別指導計画の活用と保護者との合意形成

（２）確かな学力の育成【知】

- 知識・技能の確実な習得
 - ◎姿勢保持を土台とした授業規律の確立、教室環境の整備、各種調査の分析を生かした授業の質の向上
 - ◎ユニバーサルデザインの視点に立った指導方法の工夫
 - ◎パワーアップ講習（補習教室）、パワーアップタイム、ドリルパーク等を活用した復習による基礎・基本の定着
- 思考力・判断力・表現力の育成
 - ◎校内研究での学びを生かした、問題解決的な学習における一つ一つの過程を大切にした授業の徹底
 - ◎総合的な学習の時間や集団宿泊的行事を核とした郷土学習の充実
 - ◎愛宕タイムの全校一斉朝読書や学校司書教諭、ボランティアの読み聞かせによる読解力向上
- 主体的に学習に取り組む態度の涵養
 - ◎児童の知的好奇心に火をつける授業の創造、教える授業から児童が自ら学ぶ、友達と学び合う授業へ
 - ◎適正で信頼される評価の推進に向けた指導と評価の一体化
 - ◎各種検定やコンクール、地域行事への参加の推奨

（３）健やかな心身の育成【体】

- 運動を通した健康的な生活習慣の確立
 - ◎『体力向上推進計画』を意識した体育授業等の活動による基礎体力の向上
 - ◎ラジオ体操、外遊びの推奨、専門的指導員、外部人材の積極登用
 - ◎安全に配慮した運動器具の点検、修理、交換

- 社会の変化に応じた学校安全の推進
 - ◎生活安全、交通安全、災害安全を通して、自ら安全な行動がとれる資質の向上
 - ◎SOSの出し方教育による自殺予防や虐待等からの児童の安全確保のための関係機関との連携
 - ◎安全保持義務の遂行と危機管理意識の向上
- 心身の健康の保持増進に関する指導の充実
 - ◎学校医、薬剤師と連携した感染症対策と学校教育活動の両立
 - ◎食物アレルギー対策委員会の実施による安全確保、エピペン講習会の実施
 - ◎各学年における栄養士の食育指導を生かした食への関心の向上、異物混入などの調理室の事故防止

(4) 信頼される開かれた学校づくり

- 小中一貫教育・保幼小等地域との連携の充実
 - ◎小中一貫教育全体構想に基づく、義務教育9年間を見通した継続性のある教育活動と具体的な取組
 - ◎ガイダンスとカウンセリング機能を活かした中1ギャップの緩和への取組
 - ◎保幼小の連携の充実、スタート・カリキュラムの適切な実施など小1プロブレムへの取組
- 地域運営学校の強みを生かし、地域と協働した教育活動の一層の推進
 - ◎学校運営協議会の熟議を踏まえた学校経営
 - ◎愛宕会、青少対等との連携による地域とともに学ぶ教育活動の展開
 - ◎外部機関との連携による課題解決、地域人材の積極的活用、授業ボランティア拡大
- 保護者や地域とのきめ細やかな情報共有
 - ◎HPの情報公開、Home&Schoolの有効活用
 - ◎保護者会前等に、校長が直接保護者に情報発信・情報共有する機会の設定・実施
 - ◎丁寧な保護者対応と適時・適切な情報提供

(5) 教職員の資質・能力の向上

- 揃える指導で、全教職員で全児童を育む
 - ◎学校経営計画の具現化を目指す学校運営力、組織貢献力の向上、OJT体制の充実
 - ◎校内研究やOJT研修で学んだことの日常の実践への反映
 - ◎「ICT推進計画」による市系統表を踏まえたICT活用能力向上、教育課題に対するOJTの実施
- 法令を遵守、公務員としての自覚
 - ◎週案に基づく教育課程の適正実施
 - ◎サービスの厳正、体罰や不適切な指導の根絶、公私の区別
 - ◎費用対効果を念頭に置いた計画的な予算編成、執行管理
- 教育の質の向上を目指す働き方改革
 - ◎校務分掌のスリム化による会議の精選、定時退勤日の設定
 - ◎高学年の一部教科担任制、低・中学年における学年内交換授業の確実な実施による教材研究の軽減
 - ◎仕事上の悩みや困りごとを相談し合える風通しの良い職場環境の構築、時間設定

3 今年度の重点目標と方策・数値目標 【5つの柱と15の矢】

「自己有用感の育成」と「基礎・基本の定着」

① 【徳】 豊かな心の育成
～生命尊重・人権尊重の精神の育成

- ① いじめを許さない学校
→いじめ防止の取り組み 90%
→いじめ防止授業、防止研修を年3回実施
- ② 進んであいさつする児童
→すすんであいさつをしている 95%
→指導している 100%
- ③ 特別活動の充実
→役に立っていると思っている 90%

【知】 確かな学力の育成
～基礎・基本の確実な習得

- ① 基礎・基本の徹底
→算数ベーシックドリル正答率60%未満の児童の割合20%未満
→市学力調査 市平均+5ポイント
→「はちおうじっ子ミニマム」全問正解50%
- ② 個別最適・協働的な学び
→調べたり、話し合ったりしている 90%
- ③ 分かりやすい授業
→先生の教え方は分かりやすい 90%
→落ち着いて学習できる雰囲気 90%
→学習環境の整備 95%

【体】 健やかな心身の育成
～健康な生活習慣の確立

- ① 体力向上
→自分はよく運動をしている 80%
→体力向上推進計画の「ソフトボール投げ、反復横跳び、20mシャトルラン」における目標数値の達成
- ② 主体的な安全行動
→年間計画に基づいた避難訓練における事前事後指導の充実 90%
- ③ 健康の保持増進に関する指導
→全学年において、栄養士の専門性を生かした食育の実施

【地域】 信頼される開かれた学校
～地域と協働した教育活動の推進

- ① 小中一貫教育
→上柚木中との取り組みの周知 90%
→「サマースクール」3日間実施
- ② 学運協、愛宕会、青少対等との連携
→学運協との熟議を経た学校経営の推進
- ③ 情報提供・共有
→開かれた学校づくりに努めている 90%
→適切な情報提供 90%

揃える指導

【教職員】 資質・能力の向上 ～公私の充実、働き甲斐のある職場

- ① 率先垂範 良き大人のロールモデルたれ
- ② 週案に基づく教育課程の適正実施
- ③ 月時間外労働時間45時間以内、会議や教育内容の精選
→文科省指針による「時間外労働 月45時間」以内